

SSKP

船橋障害者自立生活センターニュース

2000年6月27日発行 第34号



編集: 船橋障害者自立生活センター事務局
〒273-0011 船橋市湊町1-6-12
郵便振替「00140-9-609088」
TEL: 047-432-4554 FAX: 047-432-4565
URL: <http://www02.u-page.so-net.ne.jp/wb3/wave-fil/>
E-Mail: wave-fil@wb3.so-net.ne.jp

障害者のケアプラン問題を考える シンポジウム開催のご案内

主催 船橋障害者自立生活センター(WAVEふなばし)

私たちのセンターでは障害者の地域生活に関係のあるテーマを選んで、毎年シンポジウムを行なっていますが、本年も下記の要領で開催することになりました。今回のテーマは、少々一般向きとは言えませんが、地域で暮らす障害者にとっては他人事ではない問題であり、自立やその在り方とも直結したテーマです。

「整備推進事業」への知識を深め、いわゆるケア・プランとは何か、みんなで考えたいと思います。ぜひ、ご参加ください。

開催趣旨

厚生省は平成10年から「推進事業」に着手していますが、千葉県でも昨年のケアマネジャー指導者研修の実施につづき、今年は船橋市で対象障害者の抽出調査、ケアマネジャーの養成などを始めています。この「事業」は「地域における障害者の生活を支援」する総合的体制の整備と、「介護等支援サービス」の実施のためとありますが、具体的内容や方法、ケアマネジメントの意味など、明らかでない部分が少なくありません。このシンポジウムでは、それらの点を明らかにし、あるべき自立支援と、介助保障の在り方等を話合うことで、今後役に立てたいと思います。

日時: 7月1日(土) 13:30~16:00

場所: 船橋市女性センター研修室

テーマ: 障害者のケア・プランとは?

- 「障害者ケアマネジメント体制整備推進事業」とそれのもたらすもの -

参加費: 無料

講師(敬称略):

高梨 憲司(社会福祉法人愛光相談援助室長)

上村 義昭(船橋市障害福祉課長)

司会・コーディネート: 宮尾 修(WAVEふなばし)

参加申し込み・問い合わせ先:

WAVEふなばし相談室 TEL: 047-495-6777



第9回定期総会が開かれました

当センターの2000年度の定期総会が、5月28日に船橋中央公民館の第2集会室で開催されました。

当日は、出席者が比較的少なくて残念でしたが、宮尾代表の挨拶につづいて船橋市を代表して上村・障害福祉課長、田上・船橋市社会福祉協議会会長、堀江・県議会議員、視覚障害者の作業所「ワーク・アイ」の金子・所長からそれぞれご挨拶を頂き、副代表の山本明さんを議長に選出して議事に入りました。

議事は、99年度の活動報告、決算報告、監査報告、2000年度の活動計画、予算案の順でセンター本体と船橋市の委託事業である障害者生活支援事業部門に分けて、宮尾代表、杉井事務局長、相談員の前田満子さんとピアカウンセラーの山崎真弓さんが議案の内容について説明をして、若干の質疑応答の後、いずれも事務局の提案の通りに拍手で承認されました。次ページ以下に決算書と予算書、それに活動計画の文書を掲載しますので、ご参照ください。議案の説明の中でも話が出てきましたが、来年は設立十周年を迎えます。公的な介助保障制度の問題、NPO法人格取得の問題、新しい事務所探しの問題など、相変らず難問が山積しており、それらを少しでも解決に近づけるために事務局一同全力を傾ける所存ですが、何といっても、会員をはじめ、多くの皆様のご支援なしには私たちの運動は成り立ちません。今後ともご支援ご協力をお願い申し上げます。

最後に、下記の皆さんを今年度の運営委員に選出して議事を終了しました。

2000年度運営委員(敬称略)

相川宏光・落合隆夫・柿沼次男・小山浩二・斉藤誠・塩野剣士・杉井和男・田沼敏夫・福本三之助・前田満子・宮尾修・山崎真弓・山田高・山本明・和田みどり・渡辺由美子
池沢敏夫(監査)・神谷善倫(監査)



収支決算報告

第9期(平成11年4月1日 平成12年3月31日)

収入の部		支出の部	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
会費	359,000	賃借料	302,400
賛助会費	356,000	光熱費	150,814
団体賛助会費	110,000	備品整備費	27,562
会費収入計	825,000	事務用品費	10,978
カンパ,祝金他	2,401,802	事務所運営費計	491,754
新事務所設立基金	967,241	給与	4,044,130
船橋市	200,000	給与(預り金)	206,000
船橋市社会福祉協議会	100,000	慰労金	250,000
麒麟福祉財団	400,000	職員手当計	4,500,130
日本労働組合総連合会	1,000,000	通勤交通費	238,540
社会福祉医療事業団	2,000,000	その他の交通費	41,430
助成金計	3,700,000	通勤手当計	279,970
電気料	75,409	別納,葉書,切手代	98,245
電話料	83,132	電話料	166,259
通信費	47,523	通信費計	264,504
支援事業按分計	206,064	印刷費	163,771
介助手数料収入	485,600	全国自立センター協議会	15,000
リフトカー収入	406,800	慶弔費等	21,000
印刷収入	433,610	交際費計	36,000
本販売収入	83,000	保険料	172,830
コピー他収入	15,680	懇親会費用	109,680
コココーラ収入	67,672	印刷事業(翼よはばたけ)	407,925
事業収入計	1,492,362	リフトカー経費	269,424
雑収入	67,750	ガイドマップ作成費	2,001,156
銀行、郵便局通帳利息	1,903	事業経費計	2,678,505
		振込手数料	6,748
		その他の経費	73,390
		雑費計	80,138
前年度繰越金	653,432	次年度繰越金	2,182,872
預り金(支援事業3月分給与)	644,600	千葉銀行普通預金	1,121,692
		ガイドマップ専用(千葉銀)	0
		郵便局普通預金	63,204
		新事務所設立基金	977,435
		現金	17,541
		郵便振替(未処理)	3,000
合計	10,960,154	合計	10,960,154

2000年度予算

収入		支出	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
会費収入	1,300,000	賃貸料	874,400
寄付金カンパ他	2,300,000	職員手当	3,800,000
助成金	2,800,000	交通費	200,000
事業収入等	800,000	事務所経費	100,000
前期繰越金	2,182,872	通信費	250,000
		光熱費	200,000
		備品整備費	120,000
		保険料	280,000
		交際費	40,000
		事業経費	2,000,000
		新事務所設立準備費	1,500,000
		予備費	14,472
合計	9,382,872	合計	9,382,872

2000年度活動方針

重点目標

NPO 法人化を目指す(10月に法人設立総会 年内に申請)。

ガイドマップの協力者、相談室の利用者、シンポジウム参加者などの名簿を活用して、入会を促すなど、会員の拡大に努める。

介助派遣活性化の一助として「全身性障害者介護人派遣事業」の実施を求める運動を継続する。

自立生活者を増やせるように支援事業部門と連携を強化する。

スケジュール

- 5月10日～ 自立生活プログラム
- 5月20日 運転ボランティアの集い
- 7月1日 ケアマネジメントシンポジウム
- 7月 介助講習会
- 9月下旬 ピア・カウンセリング集中講座
- 10月 交通行動
- 10月 法人設立集会
- 11月 シンポジウム
- 11月～ ピア・カウンセリング長期講座
- 12月 介助講習会



・その他

バリアフリー写真展

設立十周年記念事業及び今後の活動のあり方を検討するプロジェクトを設置する。



新
ス
タ
ッ
フ
紹
介

昨年春、「リフトカー運転ボランティア募集」の新聞記事を見て来ました。前厄の落合隆夫です。よろしく。

私は、手と口が少し不自由な軽度障害者ですが、でもいままでは、介助者を必要としない、福祉とは程遠い仕事をしていました。

昨年夏の絵画展の頃から、WAVEふなばしの事務所に「うえいぶ号」の洗車と点検のために、週に一、二度足を運んでいたの、いつの間にか事務局スタッフの一員となりました。また、WAVEの活動に携わって1年にもなりません、この度、介助者派遣事業のコーディネーターや、事務処理、シンポジウム等の運営のお手伝いと、事務所での実務を担当することになりました。至らぬ点ばかりかと思いますが、どうぞ未永くお付き合いください。また、本年度、NPO法人格の取得や、来年度実施予定の全身性障害者介護人派遣制度に向けての準備と、自立生活センターにとっても、地域で暮らす障害者にとっても、大切な1年となりそうなので、その責任を全うするよう努力したいと思います。

この春先に亡くなった小菅浩一君は、「地域で暮し、社会参加したい障害者より、社会を支え、自力で生活をする社会人になりたい」という考えでした。船橋障害者自立生活センター“WAVEふなばし”は、そんな彼が希望を託した所です。新住挨拶としては妙な話でしたが、いろいろな人が行き交い、ニュースにあふれたセンターに、私がしてやる。

レディース・アン・ジェントルメン・あんど、おとつあん、あんど、おかつあん。

はじめまして、そうでない方は「こんにちわお久しぶり」の塩野剣士でございやす。私には、良く気をつく妻が2人と、美しい愛人が3人、親孝行な息子と可愛い娘、手のかからない犬が2匹、そして年収が2千万円、あればいいなと思っています。このたび急遽、センターの常勤スタッフとしてやってきました。オオ〜ッと、スイッチョ、スイッチョ。グラツェ、グラツェ。なんで〜ございやす。

この原稿をお読みの皆様ズには「また、変な人材を拾って来たな」と、チョー不安な印象を与えているかと思いますが、その予感半分当たっておろうかと思われま。てやんでえ、べらんめえ、あんらあいやだ〜。いろいろとおっしゃられる意見は拝聴いたしますが、あ〜らごめんあさあせ。狙い通りに落ち込むことはありません。私は、たぶんバカです。バカなんです。でも、バカは善だと思っています。それを愚かと思うか、馬鹿と思うかはあなたの自由。でも私は、負けない。平和の為、世界の為、奇々怪々なバカヤロウ達の為に笑われながらくだらない事も言い続けていこうかと思っています。仕事は、クールにまじめにやります。



た〜つ
バカだもん

特別連載

私らしい生活の実現を目指して(10)

渡辺 由美子

障害者が働くということを考える

自立生活をしていく上で日中の時間をどう過ごすかということは重要なキ - ポイントのひとつだと思います。それにもましてどれだけの経済力を持てるかも、どんな生活を営めるかということに密接な関係があります。今の福祉的政策は、最低限のことしか想定しておらず、障害者がそのもてる能力を生かして働くなどということは前提とされていません。それは大変おかしなことだと思います。この原稿を書くにあたり、長文をワ - プロで書き上げるために大変苦労をしました。最初は自分で書こうと思っていました。しかし、なかなかかどらず、頭も働かないので途中から私がしゃべったことをワ - プロで打ち込んでもらう口述筆記に切り替えました。この文章を書きあげるまでにのべ何人の仕事を手伝う手が必要だったのでしょうか。今こうして皆さんの前でもっともらしいことをお話しできるのも、自分でできなくても私が社会的に働くということに賛同し、協力を惜しまず夜遅くまで私の言うとおりとまらない文章を打ち続けてくださった多くのボランティアさんの努力の賜物です。結局、重度障害者は何をするにも適切な人的支援の量と質が確保できるかどうかにかかっているのです。千葉県の場合、今の福祉制度では働く事に個人的な介助が必要でも人が派遣されるシステムは存在しません。これでは就労意欲も潜在能力も活用されません。誠にもったいない事だと残念に思います。条件さえ整えば絶対何か出来る事があるのです。障害者も適切な援助を受けて働くのは当然の事だと思います。援助つき就労を一日も早く実現させたいです。

公共交通機関の問題点

公共交通機関の中でも電車は、車椅子障害者でも利用する事が可能な乗り物になってきつつあると思います。

私が養護学校を卒業した十数年前と比べても目覚ましく変化しました。JRは特に民営化してから対応が良くなりました。私のよく利用する私鉄は、未だどうしようもなく乗りにくいです。

毎日が社会変革運動だと思い、嫌みにも屈せず通勤には電動車椅子を使用しています。すると『ダイエットをしろ!!』とか『こんな重いものを持ち上げられない』とか『持ち上げる人の事も考えてくれ』とか『毎日この寒いのに外出しないで家で暖かくして寝ていればよいのに』『毎日よく遊びに行く所があるなあ』『一人で乗るな、介助者つけろ』『今日は何の映画見に行くんだ』など数限りない罵声を浴びせられます。

障害者が働いているとは、想像しないらしく毎日道楽の手伝いをさせられていると思っているような言い方です。

私はこんな体でも働きたいと思い、一生懸命通っている時にこんな事を言われるとよく頭にきたものです。今でも根本の体質はあまり変わっていません。それでもやっと鉄道関係者の意識の中にまだ不十分ではありますが、乗車拒否ではなく、車椅子に乗っている人間をお客さんとして認め安全に目的地まで届けようと努力している姿勢が見られる様になりました。その為のマニュアルも作られてきました。

マニュアル通りにしか動けないなどの問題点はあるにしても、とにかく車椅子の人間を一人のお客として乗せてもらえる事は大進歩だと思います。ここまで諸条件が整うまでに私だけでなく、どれだけの重度障害者が人権を無視され続け、嫌な

思いをしながら、それでもめげずに「公共交通機関に乗りたい」という運動を継続してきたか知れません。

社会の意識を変えるためのその涙ぐましい努力の結果が今日を迎えたと言っても過言ではないでしょう。それでもまだ階段は沢山あるし、電車とホムの間はあいているし、障害者用トイレはまだ数える程しか駅に設置されていません。

そんな中で一番大きく変わったのは人の意識だと思います。階段の前にいると人が集まって来て『手伝いましょうか』と通りすがりの人が気軽に声をかけて下さる様になりました。本当に嬉しい事です。

ガイドヘルパ制度もなく電動車椅子も使っていなかった時代は、よく『そこまで押して行って下さい』と通行人に依頼し、通行人リレ方式で目的地まで通ったものです。今思うと、全然手動車椅子を動かさない私がよく目的地にたどり着けたものだと思います。でも世の中遮二無二やろうと思えば、誰かが何とかしてくれるものだとその時実感しました。

ただ、あまりにも精神的にドキドキハラハラなので車椅子ガイドヘルパ等依頼すれば人が頼める様になった現在では、私にはもうできません。その当時はそうしてでも社会に参加したかったのです。

公共交通機関の中で未だにもっとも遅れているのは何と言っても路線バスです。現状では車椅子での乗車は物理的に無理です。にも関わらずほとんどのバスが、後ろの扉に車椅子マクをつけて走っています。乗車拒否はしないという意味なのだそうです。前提条件として乗れないものに乗車拒否しませんというマクを付けるというナンセンス、なんとかならないものでしょうか。

路線バスとして最近では低床式リフトバスが東京や大阪方面では1時間に1本程度運行される様

になっています。これも千葉県はまだありません。

もう一つの公共交通機関としてタクシーがあります。これも運転手の人柄のよしあしによって、乗車拒否をされたり、嫌みを言われたり、私たち障害者にとっては、高いお金を払わなくてはならない割には使い心地の悪いものです。

行政から交付されている福祉タクシー券も、千葉県内統一ではなく、各市の事情により支給額や制度そのものの利用方法が違う為、市内から乗っていくぶんには制限額ぎりぎりまでどこまででも行けますが、帰りはタクシー券が使えないので自腹で帰ってこざるを得ません。こんな事はおかしいと思います。せめて、県内はどこにいても、使える制度であってほしいと思います。

それからタクシーのトランクは、低燃費のLPガスタンクを積んでいるのでトランク内が狭く車椅子が入りません。その為、紐で縛るなどしてトランクを半分開ければなしで走らざるを得ません。そんな理由で雨天の日など私たちがタクシーを使用したいと思う日に限って運転手は車の中が濡れるからといって嫌がります。露骨な乗車拒否は少なくなりましたが、それでもいつ電話しても、「今車がない」と断られることが多いです。体裁の良い乗車拒否でしょう。

電動車椅子が動き回ることが想定され、階段や段差が解消し、障害者も出来る範囲で仕事を持っている事が当たり前になり、通勤時間帯に車椅子が乗り込んできても、「お互いにお仕事ご苦労様」と言いあって譲り合える、そんな公共交通機関にしていく為に、毎日不便と思いながら公共交通機関を使って、今後も行動し続けたいと思います。

何処かのキャッチフレズではないですが、いつでも誰でも何処へでも移動可能な社会の実現の日まで……。

カンパのお礼

前号以降、以下の皆様より温かいカンパをいただきました。厚くお礼申し上げます。

(順不同)

(個人)

柿沼 次男様	石栗 久子様	前田 満子様	遠山 美枝子様	亀沢 泰様
大越 きよ様	永山 美子様	瀬能 義辰様	桜井 きみ代様	千葉 満様
仙波 恒雄様	山田 晴子様	井村 美絵様	大上 富士男様	岩瀬 廣様
清水 光明様	鈴木 大子様	今西 和枝様	山本 せつ子様	東 周三様
三宅 章之様	多田 勝也様	金子 和子様	三堀 八重子様	三堀 昇様
三堀 京子様	山田 美穂様	神谷 善倫様	山内 しづ子様	金子 楓様
堀江 はつ様	渡辺 慶子様	山崎 真弓様	佐久間 良夫様	総会出席者
及川 みゆき様	多久和 久美子様	高沢 千江子様	古井丸 雄彦様	金網 喜代美様

匿名

(団体)

船橋市社会福祉協議会

会員の皆様へ

- ・平成12年度の会費の納入をお願いいたします。会員の約半数の方が未納となっています。なお、自分の会費が支払われているかどうかの確認をとりたい方はお気軽にセンターまでお問合せください。
- ・平成11年度の会費の納入がまだ済んでいない方がいらっしゃいます。速やかに納入してください。7月10日までに納入されない方には督促状をお送りさせていただきますので、よろしくお願ひします。
- ・退会をご希望の方は、できるだけ早めにお知らせください。

介助派遣事業(介助サービス)利用者および、介助者の皆様へ

- ・介助料の受取りと支払いの方法について
利用者の皆さんは、5日までに前月分の介助記録表をセンターまで送付してください。
利用者の皆さんには、10日までにセンターから介助料請求書を送付しますので、15日までに介助料を入金してください。
介助者の皆さんには、利用者からの入金があり次第、20日から介助料を支払います。

毎月、第3土曜日に相談室隣の体験室で、介助者の皆さんが気軽に参加していただける交流ミーティングを行います。日頃、介助で思っていること、感じていること、センターに対する不満や意見などを介助者どうしが気軽に話し合える交流の場にもしていきたいので、これから介助者になりたいという人もどしどし参加してほしいと思っています。

発行所 東京都世田谷区砧6-26-21

障害者定期刊行物協会

頒価 100円